

# 重層的内部質保証システムの構築に向けて

## －AP事業の導入経緯、概要とその成果－

大阪府立大学

畑野 快・上垣友香理

### 1 AP事業導入の経緯

大阪府立大学では、高等教育開発センターが中心となり、1. FDに関するセミナー、ワークショップの開催、2. GPAの集約と分析、3. 学生調査の実施体制の構築、4. 授業評価アンケートの実施を行ってきた。これらの取組み及びGPA、学生調査の分析に基づき（i.e., 詳細は高橋ほか, 2014）、2012年度には全学必修科目として初年次ゼミナール、Academic Englishを導入し、また、学生の学びの履歴を可視化するツールとしてeポートフォリオの開発及び導入を行ってきた。しかしながら、本学のFDをさらに推進するにあたり、(a) カリキュラムレベルでのFDの支援が十分でない、(b) アクティブ・ラーニングを推進するための学習環境が十分でない、(c) 学位プログラムレベルで学生調査が十分に活用されていない、(d) eポートフォリオの入力率が低いという課題があった。そこでAP事業を契機とし、本学ではこれらの課題を克服すべく、以下の取組みを行ってきた。

### 2 AP事業の主な取組み

テーマ1 アクティブ・ラーニングに関しては、(1) 総合リハビリテーション学類における反転授業導入の試み（aに対応）、(2) 授業外でのアクティブ・ラーニング環境構築を実現するmeaQsシステムの開発、(3) 学域1、2年生の学修支援を目的としたコモンズTAの配置（それぞれbに対応）、(4) テニユアトラック教員を対象とした授業デザイン研修の開発及び実施を行ってきた。これらの取組みは主にPDCAサイクルのDの支援に相当する。特に(2)は、授業外で学生に作問させ、その問題について学生同士でディスカッションさせるシステムであり、学生の深い学びを促す仕組みを構築している。また、(4)はテニユア審査の際の資格要件となる研修プログラムの一部として組み込まれている。

テーマ2 学修成果の可視化に関しては、(i) 可視化についての情報共有を目的とした他大学との合同シンポジウムの開催、(ii) 学生調査の活用として各学類におけるKey Performance Indicator (KPI)の設定及び学位プログラムごとのデータの分析及びフィードバック（cに対応）、(iii) eポートフォリオの改修と充実（dに対応）を行ってきた。これらの取組みは、主にPDCAサイクルのCの支援に相当する。特に、(ii)に関しては、KPIの達成のための授業経験、生活時間に関する分析、学部生と学域生との比較を通じた学域制の効果検証、成績情報を加味した上での満足感に関するデータ分析を行い、各学類にフィードバックしている。また、(iii)に関しては、入力環境を向上させるためのQRコードの開発、入力項目の精査、成績情報の開示をeポートフォリオ入力者のみに限定公開などの修正を行った。

### 3 AP事業の成果

AP事業の成果の検証は、GPA、学生調査、eポートフォリオ等を活用し、全学的・学位プログラムレベルに分けて検討していく。当日は2014年度入学生（AP開始年度）と2016年度入学生を対象に行なった学生調査（i.e., 1年生調査、上級生調査）を用いて全学レベルで分析した結果について、また、eポートフォリオの入力率がどのように変化したのかを報告する。これらのデータを用いることで、学生調査に関しては、AP事業の成果が1年次（教養・基礎教育まで）、3年次（専門教育まで）のどの時点でみられるのか、eポートフォリオに関しては、どのような取組みが入力率の向上に寄与したのかをそれぞれ確認する。加えて、当日の報告ではAP事業を推進した結果、新たに見出された課題についても報告し、今後の本学のFDのあり方について議論する機会としたい。